臺灣日日新報 昭和六十年七月二十九日 (火曜日) (第二種郵便物認可)

臺灣日日新報 夕刊

七月二十八日

うつすなら 新マツダ

地方指導層強化へ 初の錬成會を開催

皇民奉公會 來月一日から二日間

皇民奉公會總會の議事を終了して皇民奉公會では來る八日二日六十七年即ち時より岡四日間と午四時まで前後三日間に亙り市民團山大道の體育場に於て地方指導層の錬成會を開き、以て本島各地に於ける地方指導層の錬成を期することとなつた

一、講習員 各州、廳部及市立會議員主要官吏はその代理者各一名宛計三十名

二、講習方法 講習員は講習期間中各部各種七指導員の指導の下に體操其他生活一切を行ふ

三、講習科目並に講師 ▲役員▲皇民奉公會會則及皇民奉公實踐事項▲皇民奉公實踐と國民精神總動員▲國民精神總動員實施要綱と其の強調週間▲國民精神總動員と青年團▲國民精神總動員と婦人團體▲國民精神總動員と部落會町內會▲國民精神總動員と國民學校▲國民精神總動員と職域▲國民精神總動員と宗教團體▲國民精神總動員と言論報國▲國民精神總動員と文化團體▲國民精神總動員と經濟團體▲國民精神總動員と地方團體▲國民精神總動員と官公吏▲國民精神總動員と青少年▲國民精神總動員と婦人▲國民精神總動員と國語普及▲國民精神總動員と生活刷新▲國民精神總動員と國民體力▲國民精神總動員と國防▲國民精神總動員と防空▲國民精神總動員と國民總力▲國民精神總動員と大東亞共榮圈▲國民精神總動員と日滿支▲國民精神總動員と南方▲國民精神總動員と世界情勢▲國民精神總動員と國際情勢▲國民精神總動員と國體▲國民精神總動員と國史▲國民精神總動員と國民道德▲國民精神總動員と國民性▲國民精神總動員と國民生活▲國民精神總動員と國民組織▲國民精神總動員と國民運動▲國民精神總動員と國民訓練▲國民精神總動員と國民指導▲國民精神總動員と國民錬成▲國民精神總動員と國民教育▲國民精神總動員と國民文化▲國民精神總動員と國民思想▲國民精神總動員と國民意識▲國民精神總動員と國民性格▲國民精神總動員と國民道德▲國民精神總動員と國民生活▲國民精神總動員と國民組織▲國民精神總動員と國民運動▲國民精神總動員と國民訓練▲國民精神總動員と國民指導▲國民精神總動員と國民錬成▲國民精神總動員と國民教育▲國民精神總動員と國民文化▲國民精神總動員と國民思想▲國民精神總動員と國民意識▲國民精神總動員と國民性格

四、時間表(略)

五、講習員心得 (一)講習員ハイン新聞關係、青年團關係又は國民運動、國防團關係、婦人團關係等ノ指導者ニシテ本講習ヲ修了スルコトニ依リ其ノ指導的地位ニ於テ本講習ノ趣旨ヲ體シ皇民奉公會ノ實踐事項ヲ率先實行シ且ツ之ヲ普及徹底セシムルニ努ムルコト (二)講習員ハ講習期間中講習ノ外他ノ用務ヲ執ルコトヲ得ズ (三)講習員ハ講習期間中講習ノ外他ノ用務ヲ執ルコトヲ得ズ (四)講習員ハ講習期間中講習ノ外他ノ用務ヲ執ルコトヲ得ズ (五)講習員ハ講習期間中講習ノ外他ノ用務ヲ執ルコトヲ得ズ (六)講習員ハ講習期間中講習ノ外他ノ用務ヲ執ルコトヲ得ズ (七)講習員ハ講習期間中講習ノ外他ノ用務ヲ執ルコトヲ得ズ (八)講習員ハ講習期間中講習ノ外他ノ用務ヲ執ルコトヲ得ズ (九)講習員ハ講習期間中講習ノ外他ノ用務ヲ執ルコトヲ得ズ (十)講習員ハ講習期間中講習ノ外他ノ用務ヲ執ルコトヲ得ズ

ウクライナ獨立へ

赤色政權より百萬の民族解放 ソ聯の敗戰に運動激化

【ミュンヘン二十七日發同盟】ウクライナ獨立運動の指導者ステパン・バンデラ氏は二十七日ミュンヘンに於て記者團と會見し、ウクライナ獨立運動の現狀について次の如く語つた

ウクライナ人は現在ソ聯邦の最大の民族であり、その人口は一億五千萬を數へ、ソ聯邦の人口の三分の一を占めてゐる。ウクライナ人は一九一七年ウクライナ人民共和國を建設し、ボルシェヴィキ革命の際にも獨立を宣言したが、ボルシェヴィキ軍の爲に敗れ、ソ聯邦の一部となつた。ウクライナ人は獨ソ戰の勃發と共に獨立運動を開始し、ウクライナ人の手によるウクライナ人の國家を建設すべく、ドイツ軍と協力して赤軍と戰つてゐる。ウクライナ人は獨ソ戰の勃發と共に赤軍の背後に於て赤軍に對する大規模な反亂を起

若き十萬人青年の體力檢査を實施

本島で九、十の兩月間

打合會に出席

各州廳體育協會、學校體育團體、青年團、靑少年團、直轄學校體育團體、各地の體育指導者等を本島生産擴充體育運動の實施に當り内地の國民體力法の趣旨に則り體力の檢査を行ふ爲め來る八月上旬より九月下旬迄の二箇月間に亙り本島に於ける十萬人の青年男女を對象として實施することに決定したので、之に關し總督府體育協會に於ては二十八日午前九時より各州廳體育協會、學校體育團體、青年團、靑少年團、直轄學校體育團體、各地の體育指導者等を集めて打合會を開催した。尙當日は三十日迄に三日間に亙る豫定である。右に關する會田技師は語る

今回

實施する體力檢査は內地人、本島人並びに原地在住の外國人に對して行ふ。對象は約十萬人の十八、九歳の青年に亙るもので、其の檢査項目は身長、體重、胸圍、握力、肺活量、視力、聽力、血壓、脈搏、結核、性病、トラホーム、寄生蟲卵、尿蛋白、尿糖、色盲、疾病異常、齲齒、精神病、其の他體育の指導上必要と認むる事項である。尙檢査の結果は各人に通知し、特に必要と認むる者には適當なる指導を與へる。

要綱

は次の如し

一、實施期間　八月上旬より九月下旬迄の二箇月間

二、實施場所　

（第三種郵便物認可）　昭和十六年七月二十九日（火曜日）　東京朝日新聞　第一万四千八百六十六號

富士と共に

日覚しい泰醫學の進歩

街々に聞く失地回復の歌

熱研 富士博士の歸朝談

十年ひと昔といふが、勿論それ以上の開きがあるが、同じ泰國の首都バンコックと雖も、その變貌は實に驚くべきものがある。

近代化する泰の街

泰國は交通人口を除き近代式建築物は殆んどなく、僅かに王宮や寺院に用ひた事があるだけで、あとは悉く木造の高床式住宅であつた。

ここには泰人特有の生活樣式があつて、一般人は殆んど椅子を使用せず、床に坐つて食事をとり、寢臺も使はない。

風俗にも革新の色濃く、從來の「パーシン」（腰卷）を廢して洋服を着用するものが多くなつてゐるが、ワンピース型の婦人服は殆んど見られない。

一般に男子は丸坊主で、婦人は長髪を束ねて背後に垂らしてゐるが、最近は男子の間にも長髪を流行させるものがあるといふ。

泰人の衞生觀念に重點を置く日泰の國から主さ二十二日歸朝した富士博士は、泰國の近代化と發展ぶりに驚異の眼を見張つてゐる。

昨年秋以來、同じ熱帶地の泰國の首都バンコックに滯在してゐた富士博士は、

成層圏 (26)

廣津和郎作
大貫松三畫

謎の少女（二）

分方になると、店の前に淋びしい木枯がやって来た。紙屑函もやって来た。それから昨夜臨家の仕事で疲労したので、今し方起きて来たという様子もやって来た。これで「吉川女史の会話」の人々はみんな揃って来たわけだ。今晩の会話は愈々賑やかになるというものである。併しみんなが同時に口を開いて喋ったのでは、よくお互いの話が聞き取れないから、まず最初に彼女は、臨家に立寄ってから来たのだと云う事を話した。

「いらっしゃって、番野さん。さっきの方が」

と吉川女史が臨家の方を見ながら叫んだ。

番野は振向いて見ると、一人の少女が臨家を出てこちらに歩いて来た。そうだ、やっぱりあの園芸の少女である。サンビースに下駄を突っかけてあたあの時の恰好と寸分違わない。

「ええ」

番野は答えながら、立ち上がりかけたが、その儘また腰を下ろした。

「いいえ、あのままで……」

少女はこう云いながら、ちょいと臨家の方へ振返ったが、すぐ吉川女史の方へ向き直って、

「わたし、ほんとうに……」

と言いかけたが、急に口を噤んでしまった。

「やあ、あの時はどうも……」

と吉川女史が挨拶すると、

「わたしこそ……」

少女はこう云いかけたが、急に口を噤んでしまった。

「わたしも臨家さんに寄ってからいましたの。そして番野さんの話を聞いたのです。まあ、あの時の事にかこつけて、あなたの感謝を受けたのかと思って……」

「まあ、そうですか。併しよく来てくださいました。嬉しいと思っていたんです」

「御冗談ばっかり。あの時はあんな態度をお見せして……」

「いいえ、あの時はあんな態度をお見せしてくださったからこそ、私どもは助かったのです。私達二人は、あの時は全く途方に暮れていたのです。あの時のあなたの態度は、実に立派でした。あなたに感謝しています。ねえ、吉川さん」

「ええ、ほんとうに……」

吉川女史が番野に向かって相槌をうったので、少しもじもじしていた番野はその儘に頭を下げるように、ちょこんと頭を下げた。

「しかし、ほんとうに……」

少女はこんな風に言葉を切ったが、ちょいと臨家の方を見ながら、番野に接吻した。番野は急に顔を赤くして、

「いや、あなたに叱られる様なことは何もしていません。ただ……」

と言いかけたが、急に口を噤んでしまった。

「いや、あなたに叱られる様なことは何もしていません。ただ……」

と言いかけたが、急に口を噤んでしまった。

「ただ、どうしてもあなたに一目にかかりたいと思ったのです。——この答はあの時のままありません。あなたに「山がさい」といわれてから、僕はとても考えちゃうんです。正直にいって、初めは僕から立ち去りました。併しあなたのいられた郷はほんとうです。そこで僕はあれから一週間もかかって、やり直しとんでもない。これでもかこれでもかと思って、箱根山に登ったんです」

番野はあくまで相手の言葉を認めようとした。

「それだからこそ、僕のがらあなたに感謝しなければならないのです。そのために、態々あなたに一目お目にかかりたいと思ってるのです。——この答はあの時のままありません。あなたに「山がさい」といわれてから、僕はとても考えちゃうんです。正直にいって、初めは僕から立ち去りました。併しあなたのいられた郷はほんとうです。そこで僕はあれから一週間もかかって、やり直しとんでもない。これでもかこれでもかと思って、箱根山に登ったんです」

番野はあくまで相手の言葉を認めようとした。

「それだからこそ、僕のがらあなたに感謝しなければならないのです。そのために、態々あなたに一

（第二版）（明治一年一月五日第三種郵便物認可）　昭和十六年七月二十九日（火曜日）　臺灣日日新報　第一万四千八百六十六號

臺灣新民

本日夕刊共八頁

海鷲長時間に亙り重慶及周邊を痛爆

珍し敵九機、直に逃避

【○○特電二十八日發同盟】中支那方面艦隊發表―本日海軍機は重慶に殺到、自由に、然も、敵戰闘機及び高射砲の反撃を全く受けることなく、悠々たる爆撃を敢行した

【○○特電二十八日發同盟】重慶攻撃に參加した海軍航空隊の編成は二十八日出撃を利して左の如し

▽第一聯合航空隊（第一聯隊、第二聯隊、金華、丸山、佐久間各基地）▽第二聯合航空隊（第三聯隊、第四聯隊、大谷各基地）▽第三聯合航空隊（第一聯隊、第二聯隊、杭州基地）

第一聯合航空隊より成る戰爆隊は二つを四川の山脈、嘉陵江中流より上流四百粁に亙る四川各飛行場に、又第二聯合航空隊より成る戰爆隊は二つを四川の山脈、嘉陵江中流より上流四百粁に亙る四川各飛行場に、更に第三聯合航空隊より成る戰爆隊は二つを四川の山脈、嘉陵江中流より上流四百粁に亙る四川各飛行場に、夫々爆撃を加へんとしたが我に敵の一機をも發見せず、我が戰爆隊は悠々重慶上空に進入、爆撃を敢行した

十四發他多數の爆彈を投下

三、淡水方面　十日午前七時頃、淡水方面に於て二百の敵を擊墜撃破せる我が制空隊は、同日午後二時頃より淡水方面に於ても敵機を捕捉撃墜せんと附近

社說

次に來るものは何か
タイの動向と英米の暗躍

一

佛印共同防衛協定の成立が直接契機及び佛印を第二のシリアたらしめんとする陰謀しつつあつた英、米開國に與へた打撃が如何に深刻であつたか、ということは本協定成立前後の現地狼狽した關係が如實に之を物語つて餘りあるものがある。

即ち英國側の公國するところによれば、佛印は今や日本の軍事的支配下に陷り、日本は佛印を基地として南方に對する軍事的壓迫を加へつゝあるものであり、從つて佛印の獨立は有名無實となつたものであるとなし、米國側の公國するところによれば

盛上る女性の熱意

總督さんに孟母三遷の教へを聽く

『桔梗倶樂部』輝しく誕生

【一回を聞ベンチに跨へた婦人三百餘名に小松總督として二百に餘る三毛氏に面民大の此の非常時局にありましても私達としましても何んとかしなければならぬ益々實踐の現代の力を發揮したいと存じます。今後ともよろしく御指導と御鞭撻の程をお願ひします』

との挨拶に續いて、高橋參與官から非常時局に於ける婦人の覺悟に就いて懇切な訓示があり、次で國防婦人會の活動振りに就いて、同會の理事長から詳細な報告があつた。

次に、總督夫人の御臨席を仰いで、今後の婦人團體の在り方に就いて懇談會に移つたが、總督夫人は、

『婦人團體の活動は、ともすれば、ややもすると、ただ會合ばかりに終つて、實際の活動が伴はないうらみがあります、私はかねがね婦人に大きな期待を持つてゐますから、是非三團の核心となる婦人團體が出來て、第二の國民をそだてゝ上げるに、子供に接觸の多い母親の感化によつて子供に惡くなることが多いものですから、今男は一生懸命にやつてゐますが、汗と油にまみれた人がほんとうの仕事をする今日、男は勇ましく戰地へ、銃後を守るものは婦人の力であります、どうぞ皆さんの團體が、國家の爲に大いに活動されんことを希望します』

との激勵の後、

『婦人團體の活動は、今日から始まるのではありません、私はかねがね婦人に大きな期待を持つてゐますから、是非三團の核心となる婦人團體が出來て、第二の國民をそだてゝ上げるに、子供に接觸の多い母親の感化によつて子供に惡くなることが多いものですから、今男は一生懸命にやつてゐますが、汗と油にまみれた人がほんとうの仕事をする今日、男は勇ましく戰地へ、銃後を守るものは婦人の力であります、どうぞ皆さんの團體が、國家の爲に大いに活動されんことを希望します』

との激勵の後、

『婦人團體の活動は、ともすれば、ややもすると、ただ會合ばかりに終つて、實際の活動が伴はないうらみがあります

各地綜合版

東亞共榮圈の心臟

大高雄を建設

婦人の奮起を俟つ農村勞力の再出發

坂口知事抱負を語る

記者團との定例會見に

【高雄電話】坂口知事は二十八日午前十一時より州廳樓上會議室に於て記者團と定例會見を行ひ現下の諸問題に關し抱負を述べると共に質疑を重ね午後一時散會したが其の概要を次の如く語る

工業方面　に移つて來て感ずる事は勞力の不足である、とくに勞力の供給源たる農村の勞力を吸收する位になるやう、婦人が農家方面に勞働のない時を利用して出來得る限り勞力の供給を圖る必要がある、これには婦人の相當な覺悟と奮起とを俟つ外ない、ここで婦人を動員する事は容易でない、ここに婦人團體の組織の必要があり、これについては官廳の方面に於ても考慮中であるが、とくに高雄自體の問題を解決する爲には、單に官廳ばかりでなく、民間全般の協力を俟つ必要がある、工業都市としての高雄の將來は實に有望なるものがあるから、この點を充分に認識して貰ひたい、又一つは農村からの勞力を吸收したい、この點からは極力農業を奬勵する必要があり、農村から勞力を吸收することは困難であるが、これについては農業の機械化を圖つて行く外ない